

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成29年 3月 6日更新

事務事業名	下水道汚水処理施設維持管理事業(処理場)				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連							
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり		所属部	水道局	課長名 辻 健一							
	施策	10	水環境の保全		所属課	上下水道課	担当者名 鍋田 将文							
	施策の柱	30	水質の浄化		所属班	管理工務班	(内線) 1156							
予算科目	会計	企業	款	1	項	1	目	3	事業連番	10237	根拠法令	下水道法、水質汚濁防止法、浄化槽法	成果優先度評価結果	;
終了、開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 27年度で終了 <input type="checkbox"/> 27年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度		(年度 ~ 年度)						

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	単独公共下水道事業として整備された終末処理場である須屋浄化センター、特定環境保全公共下水道事業として建設された終末処理場である塩浸川浄化センター、農業集落排水事業計画により建設された農業集落排水施設(蘇水苑、清流館)を適切に運転及び維持管理する事業である。 下水道法、浄化槽法に基づき有資格者による維持管理を行う必要があるため、運転及び水質並びに施設の維持管理など、専門業者に業務のほとんどを委託している。 ただし、業務に必要な消耗品、医薬材料、燃料等の適宜調達管理、機器の故障や不具合に対する補修・改修は直接市が行っており、委託する維持管理状況の確認、指示、指導及び法定検査への対応を行うものである。 供用開始から塩浸川浄化センターで23年、農業集落排水施設で16年を経過し、老朽化が進んでおり、5年前と比較すると施設の補修箇所が増えている。なお、須屋浄化センターについては、平成27年度に流域下水道へ編入後廃止となる。
【業務の流れ】	①役務及び委託業務に係る年間契約事務、②補修及び修繕に係る随時の実施判断及び契約事務(1.故障等報告受付、2.現地調査、分析及び対策の検討、決定、3.契約事務、4.現地打合せ・立会い、5.竣工・完了検査、6.支払事務)、③維持管理運転委託事務(1.過去実績及び現状分析、2.維持管理業務設計・積算及び予算算定、3.維持管理業務契約、4.月毎の維持管理状況確認及び精査、5.委託費支払事務)、④汚泥処理に係る産業廃棄物委託事務
【主な予算費目】	需用費(消耗品費、光熱水費、施設修繕費、燃料費、医薬材料費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費
【意見や要望】	国や県から、東日本大震災による下水道施設等の損壊の情報や災害への備えに関する指導等が増えた。また、運転管理受託者から、農業集落排水施設は当初建設以来、設備改築を行なっておらず経年劣化による傷みが出てきていることが報告され、特に基幹となる設備については、不具合が生じた場合に即座に補修改善できないため(部品製造に2、3ヶ月かかる)、計画的にオーバーホール等を施してほしいとの要望がある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動)(DO)	須屋浄化センター、塩浸川浄化センター、農業集落排水施設(蘇水苑、清流館)の機能を保持するため、専門業者へ業務委託することにより適切な運転管理、保守、点検を行った。また、各設備の故障や劣化に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行った。	28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 前年度と同様、須屋浄化センター、塩浸川浄化センター、農業集落排水施設(蘇水苑、清流館)の機能を保持するため、専門業者へ業務委託することにより適切な運転管理、保守、点検を行う。また、各設備の故障や不具合に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行う。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由
→イ:補修件数	件	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	処理施設	②対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
		→ア:下水道汚水処理施設数 箇所
		→イ:農業集落排水処理施設数 箇所
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	支障無く稼働できる。	③成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
		→ア:不具合やトラブルの発生件数 件
		→イ:不具合やトラブルへの対応率 %
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠		総トータルコスト全体計画 ~ 年度
不具合やトラブルの発生件数及びその対応率をみることで、須屋浄化センター、塩浸川浄化センター、農業集落排水施設(蘇水苑、清流館)の機能が保持され、支障無く稼働できたかどうかを判断できると考えた。		0

各指標・総事業費の推移	単位	25年度	26年度	27年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
①活動指標	ア:件	14	10	20	27	0	0	0	0
②対象指標	ア:箇所	1	1	2	2	0	0	0	0
	イ:箇所	32	32	2	2	0	0	0	0
③成果指標	ア:件	10	11	34	40	0	0	0	0
	イ:%	100	100	100	100	0	0	0	0
投資入費量	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円	73,212		300,366				
	繰入金	千円			11,108				
	一般財源	千円	6						
	(A)事業費計	千円	73,218	0	311,474	0	0	0	0
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	正規職員従事人数	人	3	3	6	4	0	0	0
延べ業務時間	時間	520	475	700	930	0	0	0	
(B)人件費計	千円	2,071	1,892	2,788	3,453	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)	千円	75,289	1,892	2,788	314,927	0	0	0	

事務事業名	下水道汚水処理施設維持管理事業（処理場）	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	----------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 施設に精通した専門業者に業務を委託し適切な運転管理、保守及び点検を行ったこと、また、各設備の故障や不具合に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行ったことにより目標を達成できた。
	②28年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 日常の点検管理等により施設の状況を把握しており、突発的な不具合等に対して適切な補修等に対応することにより、目標達成の見込みはある。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 老朽化した施設の改善必要箇所を事前に把握することにより、不具合の発生や故障箇所を減少させ、円滑な運転管理につなげているが、施設の機能が保持されることが成果であり、向上の余地はない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似する他の下水道事業等の維持管理事業があり、作業的な連携は既に行っている。しかし、対象施設が明確に分けられており、現時点での統廃合はできない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要な維持管理業務のほとんどを委託し、最小のメンテナンス経費で運転管理しており、設備の増設も加わるため、増額はあっても、これ以上の削減はできない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 現状でも最小の人員で、他の事業との兼務により取り組んでおり、これ以上の削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 合志市下水道条例に基づき、受益者から使用料を応分負担して頂いており、公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 施設の運転及び維持管理業務のほとんどを専門業者に委託しており、その財源は使用者からの使用料である。技術的な専門性や緊急時の即時対応など、信頼性及び安全性の観点から、現時点で地域や住民に移行することはできない。

3 評価結果の総括（CHECK）

施設に精通した専門業者に業務を委託し適切な運転管理、保守及び点検を行ったこと、また、各設備の故障や不具合に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な対応ができ、施設の機能が保持され、支障無く稼動できた。電気や機械など、特殊な設備が多く、不具合箇所の早期発見及び計画的な更新を行うため、専門業者による保守点検にも取り組む必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（有効性改善） <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（効率性改善） <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（公平性改善） <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持																				
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																					